

正常に近づいたが、サプレッサーT細胞の分画が減少する傾向がみられ、これらの薬剤が免疫系に何らかの影響を及ぼしていることが推察された。

3. 蛋白漏出性胃腸炎に対する小柴胡湯の使用経験 (消化器外科)

○本多 弘・高崎 健・上田 哲哉・
島田 幸男・田中 民弥・小林誠一郎

症例は58歳の女性で、直腸癌により前方切除術をうけ、経過良好にて退院した。なお、術前術後を通しフトラフルの持続静注をうけていた。

退院後、食欲不振、下痢、口内炎、皮膚炎又、検査上、貧血、低蛋白を認めた。再入院後の大腸検査所見とも総合的に考え、薬剤による蛋白漏出性胃腸炎と判断した。種々対症療法及び、サラゾピリン投与により、下痢はある程度、寛解傾向にあったが、全身状態の改善不良のため、小柴胡湯を投与した所、食欲は回復し、下痢も1日1～2回となり、又TP、アルブミン、ChE値の上昇により、全身状態の改善をはたしたと考えられる。

4. 肝機能障害に対する小柴胡湯の使用経験 (第二病院小児科)

○三原 章・木口 博之・
和田恵美子・村田 光範

肝炎の治療として近年、小柴胡湯、桂枝茯苓丸などの柴胡剤や駆瘀血剤を中心とした漢方薬による治療が試みられている。小柴胡湯はその主薬である柴胡の主成分サイコサポニンが、肝細胞膜の破壊を防止することにより、その発症機序の相違とは無関係に肝炎に対し有効と考えられている。われわれは肝機能障害を呈した小児3例に対し、本剤の単独投与またはグリチルリチン製剤、副腎皮質ステロイド剤との併用療法を試

み有効であったので報告した。症例1は急性リンパ性白血病に合併した薬剤性肝炎、症例2は心臓手術後のnonA-non Bウイルス性肝炎、症例3は、von Willebrand病の出血傾向を管理するために使用された血液製剤による肝機能障害であったが、いずれも本剤は有効であった。

小柴胡湯の小児に対する使用報告はすでに「扁桃型」虚弱体質児に有効といわれているが、今後、小児の肝炎において本剤の使用経験を重ね、検討したいと考えている。

5. 夜尿症に対する小建中湯の治療経験 (第二病院小児科)

○橋本節子・本城美智恵・村田光範

当院アレルギー外来に通院中の気管支喘息患児で夜尿が見られた4症例に対し、小建中湯を投与し、3例に効果が認められたので報告した。小建中湯は芍薬、桂皮、大棗、甘草、生姜に膠飴を加えたものからなる一種の強壯剤で、小児においては虚弱体質改善、夜尿症、夜なきに対し、一般に用いられている。気管支喘息は、4症例共1～3歳までに発症し、現在は軽度である。症例1：5歳男児、4歳からの二次性夜尿((2～3回)/晩で毎晩あり)。小建中湯3gr/日より開始、その日より夜尿は全く消失、著効を認めた。又内服の一時中止により夜尿の再現がみられた。症例2：8歳男児、5歳から尿路感染が反復し、7歳で尿管膀胱造口術を施行し、尿路感染は治癒したが毎晩夜尿が始まった。小建中湯5gr/日の投与で約1カ月後には2回/月程に著減した。症例3：4歳男児、一次性夜尿(2～3回/晩で毎晩あり)。小建中湯内服2カ月後には夜尿がほとんどみられなくなった。以上有効3症例の治療経験を報告した。